

菊池川流域3市1町(山鹿・菊池・玉名・和水)共同で、「日本遺産」認定を目指しています!

菊池川流域 日本遺産認定申請ストーリー「天下第一の米作り ~菊池川流域 二千年の米作りの歴史~」



大集落遺跡群
(弥生時代)
方保田東原遺跡では、大量の鉄製農具が出土しており、弥生時代から盛んに米作りが行われていたことを示す。



古墳及び装飾古墳群
(古墳時代)
米の豊かさが、古墳・装飾古墳文化を花開かせた。中でも、装飾古墳は、日本一の質・量を誇る。



鞠智城跡 (古代)
古代の山城。お米を備蓄した米倉跡が見つかる。大量の炭化米も出土し、「米原長者伝説」として語り継がれている。



菊池川流域の米作り
各時代に最先端の技術を採用しながら、おいしくて質の良い米を作り続けている。現在も全国食味ランキングで最高ランクの「特A」を7年連続獲得するなど評価が高い。



条里制跡・区画割
(古代)
千数百年前、1辺1町(約109m)四方に区画された田が今も残り、現在も米作りが続いている。



菊池一族 (中世)
米の収穫量を基盤にその勢力を拡大し、新田開発や水運を盛んに行った。



高瀬船着場跡など
(江戸時代)
米を搬出する船着場跡。現在も、「俵転がし」とよばれる石畳の斜路や石段等が残る。



旧玉名干拓施設
(明治時代)
高い石積み堤防が城壁のように続く、明治期国内最大を誇る干拓施設。

おいしくて質の良い「肥後米」は、かつて大坂堂島の米相場を左右して、将軍への献上米しても選ばれるなど、「天下第一の米」としての評判を得ていました。

<ご存知ですか? 日本遺産>

日本遺産は、文化庁が平成27年度に創設した「日本遺産魅力発信推進事業」に基づき、地域に点在する有形・無形の文化財をパッケージ化し、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定し、歴史的魅力に溢れた文化財群を地域主体で総合的に整備・活用し、世界に戦略的に発信することにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

昨年4月、第一弾として人吉球磨を含む18件が認定を受けました。文化庁は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに100件程度を認定し、海外からの観光客増加につなげたいとしています。

- 「短床犁」「暗渠排水」などの日本農業の先進的技術が誕生し、岩盤を削り貫いた井手や大規模なため池も残る。
- また、豊作を祈願する無形の文化や、米どころならではの食文化が根付き、今日も「天下第一の米」を味わえる場所。

菊池川流域の日本遺産認定に期待します!

熊本県議会議員(人吉市) 溝口 幸治



私は、洲上県議より5歳年下ですが、県議会では一期先輩の四期生です。ただし、写真を見てお分かりの通り、二人一緒にいると万年美青年(?)の私より、貫録のある洲上県議の方が先輩議員に見られるのは致し方ないところでありましょう。(笑)

私たちは、自民党青年局の最前線で活動を共にして来た仲間であると共に、県北・県南双方の活性化を実現し熊本県全体の新たな発展に結び付けようと互いに協力し合っている大切な同志であります。

◆青井阿蘇神社の国宝指定:

さて、私の地元である人吉球磨では、平成20年6月青井阿蘇神社が国宝の指定を受けました。県内で初めて、九州では55年ぶり5か所目、そして国内最南端の国宝建造物ということでも大きな話題になり、指定翌年の年間参拝者数は前年の2倍、翌々年は4倍の25万7千人、そして昨年は後述する日本遺産認定の効果も相まって7・45倍の48万8千人に達したとのことですが、人吉に住む私の感覚では10倍ぐらいに増えたように感じています。加えて、人吉球磨地域への年間観光客数が、国宝指定以前の約280万人から指定後は310万335万人に増加しており、波及効果は地域全体に及んでいます。このように、国宝青井阿蘇神社は人吉球磨に百年に一度と言え程のブレイクをもたらしています。

◆人吉球磨地域の日本遺産認定獲得:

昨年新たに制定された日本遺産制度については、かねてから洲上県議と共に興味を持ち、上京の折には所轄省庁の担当者からレクチャーを受けるなど勉強を重ねておりました。昨年の第一次募集の際は、いち早く準備が整った人吉球磨地域1市4町5か村が共同で「相良700年が生んだ保守と進取の文化」日本でもっとも豊かな隠れ里「人吉球磨」を申請し、ひと足先に日本遺産第一号認定の栄に浴しました。

日本遺産は始まったばかりの制度のため、知名度もまださほど高くはありませんが、青井阿蘇神社や相良三十三観音巡りの参拝者数は、認定以前と比べ明らかに1.2割増加しており、今後国内外への発信に工夫を凝らせば更に大きな効果が生まれるものと期待を寄せております。

◆菊池川流域の日本遺産認定申請:

洲上県議より、菊池川流域の山鹿・菊池・玉名・和水の3市1町が共同で、先に締め切られた日本遺産第二次募集に「天下第一の米作り」菊池川流域「二千年の米作りの歴史」という大変ユニークなストーリーで応募されたことを伺いました。

私は、菊池川流域が日本遺産認定を獲得した暁には、県北日本遺産産熊本市・県南日本遺産と、熊本県を南北に縦貫する新たな魅力を持った観光ルートが生まれ、国内外からもっとも多くの観光客を呼び入れるための重要な資源となるものと期待しております。

菊池川流域と人吉球磨は似た者同士、菊池川と球磨川、その後背の阿蘇山と九州山地、豊かな農林漁業資源、温泉、菊池一族と相良家古社寺と鞠智城・装飾古墳群など、枚挙にいとまがないほどです。

4月中には、日本遺産第二次認定の発表が行われます。2回目ともなると応募が増え、さぞや厳しい競争が続いていることとご心配でありましようが、関係の皆様方におかれましては、心一つに最後まで頑張って認定を勝ち取って頂きますよう祈念申し上げます。

菊池川流域の日本遺産認定獲得を、心より期待いたします!